

2023年1月31日
株式会社三菱UFJ銀行

中部飼料株式会社で「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」を成約

株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 はんざわ じゅんいち 半沢 淳一、以下「当行」）は、お客さまの ESG（環境・社会・ガバナンス）の取り組みを支援・サポートする「ポジティブ・インパクト・ファイナンス（以下、「本商品」）」を提供しております。

本商品は、「持続可能な開発の3つの側面（経済、環境、社会）のいずれかにおいて潜在的なマイナスの影響が適切に特定され緩和され、なおかつ少なくともそれらの一つの面でプラスの貢献をもたらす」ことを企図するファイナンスであり、お客さまの事業活動が環境、社会、経済にもたらすインパクトを包括的に評価・モニタリングし、お客さまの ESG 経営を金融面から支援するものです。

本商品のインパクト評価は、当行が三菱UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社（以下、「MURC」）と共同で策定した「ポジティブ・インパクト・ファイナンス フレームワーク」（以下、「フレームワーク」）に基づいております。フレームワークには評価にあたっての基準や体制等が規定されており、株式会社日本格付研究所（以下、「JCR」）より、国連環境計画金融イニシアティブによる「ポジティブ・インパクト金融原則」に適合している旨の第三者評価を取得しております。

この度、当行は、中部飼料株式会社に対し「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」の契約を締結いたしました。中部飼料株式会社の事業活動に関連する重要なインパクト領域における評価結果は次の通りです。なお、本評価は、当行と MURC が共同で実施し、フレームワークに基づいた評価である旨を JCR より確認しております。

【本契約の概要】

契約締結日	2023年1月31日
契約金額	20億円
資金用途	事業資金
貸出人	三菱UFJ銀行

《本件の概要》

中部飼料株式会社は、「特性ある仕事をして社会に貢献する」という社是のもと、事業活動を通じて環境・社会課題の解決に取り組み、企業価値の向上と持続可能な社会の実現を目指しています。

本契約の締結にあたり、SDGs（持続可能な開発目標）の目標達成に対しインパクトを与える活動として、中部飼料株式会社の事業及び重要課題から以下のテーマを選定しております。

【ポジティブ・インパクトの創出に関する評価】

インパクト領域	活動内容
<社会> 食糧 <経済>	・飼料製造・販売による食糧安定供給・食糧生産産業発展への貢献 └安全・安心な飼料の製造・販売による、適切な価格かつ安定的な食糧供給への貢献

<p>経済収束</p>	<p>┌ 食材の健康価値を向上させる飼料、食材の目的やニーズに合わせて畜水産物の色、風味、味などをデザインする飼料等、「付加価値」を持つ飼料の製造・販売</p> <p>・ 畜産家・養殖業者の支援による食糧安定供給・食糧生産産業発展への貢献</p> <p>┌ 畜産家・養殖業者のコスト削減や特性ある畜水産物づくりに貢献する飼料の開発・販売</p> <p>┌ 畜産家・養殖業者の作業効率改善に貢献する飼料（容器の洗浄作業を軽減する溶けやすい子牛用粉ミルク等）の開発・販売</p> <p>┌ 畜産に関する保険の開発・販売</p>
<p><環境> 廃棄物 <経済> 資源効率・安全性</p>	<p>・ 食品副産物の飼料原料への利活用による廃棄物の削減</p> <p>┌ 大豆油粕、菜種油粕、ふすま、パイナップル粕等の食品副産物や、規格外のニンジン等を原料とした畜産用飼料の製造・販売による食品廃棄物削減への貢献</p> <p>・ 鶏糞量を約 20%削減することができる採卵鶏飼料「KD シリーズ」の販売により、畜産廃棄物を削減し、処理時に発生する環境負荷物質を削減</p>
<p><環境> 大気 気候 廃棄物 <経済> 資源効率・安全性</p>	<p>・ 畜糞を微生物により有機質肥料へ処理する畜糞発酵処理機「コンポ」の販売により、畜産廃棄物を削減し、処理時に発生する CO₂、ダイオキシン等有害物質の発生量を削減</p>
<p><社会> 雇用 <経済> 包摂的で健全な経済</p>	<p>・ 女性活躍推進の取り組みとして、女性社員の活躍の場を広げる目的で配属先の多様化を積極的に推進</p> <p>・ 障害者採用推進の取り組みとして、ハローワークにおける採用活動へ協力</p>
<p><環境> 気候</p>	<p>・ 環境に配慮した飼料（「KD シリーズ」、飼料中のアミノ酸バランスを改善することで排せつされる窒素の量を低減する飼料、牛のゲップを抑制する飼料等）の開発・販売による温室効果ガスの抑制</p> <p>┌ 消化管内発酵由来のメタンの低減</p> <p>┌ 家畜排せつ物の発生量の削減</p> <p>┌ 家畜排せつ物中の窒素含有量の低減</p> <p>・ 有機入り配合肥料の販売による、化学肥料の使用量削減を通じた、温室効果ガスの抑制</p> <p>・ 太陽光発電の設置による、再生可能エネルギー利用量の増加、温室効果ガスの抑制</p>

【ネガティブ・インパクトの緩和・管理に関する評価】

<p>インパクト領域</p>	<p>緩和・管理の状況</p>
<p><環境></p>	<p>【インパクトの状況】</p>

<p>生物多様性と生態系サービス <経済> 資源効率・安全性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・魚粉を原材料とした飼料の製造に伴う、海洋資源への依存 <p>【緩和・管理の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚粉に代わる原料の採用、配合設計の見直しにより、従来製品と同等以上の魚の成長を可能にする低魚粉飼料を開発・販売 ・無魚粉飼料の開発・販売
<p><環境> 廃棄物 <経済> 資源効率・安全性</p>	<p>【インパクトの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼料配送時におけるプラスチック梱包資材の使用 <p>【緩和・管理の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼料配送時における資材使用量の削減、梱包資材のリターナブル化を推進し、梱包そのものを必要としない配送の導入 ・飼料を直接トラックに積載する「バラ出荷」比率を高めることで資材使用量を削減
<p><社会> 食糧 保健・衛生</p>	<p>【インパクトの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼料の品質異常・安全性異常発生時の悪影響の可能性 <p>【緩和・管理の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全な飼料の供給責任を果たすため、飼料製造に関して外部機関による各種認証・認定を取得し、飼料の安全性の確保を企図 <ul style="list-style-type: none"> └ 食品安全マネジメントシステム「ISO22000」認証を全飼料工場で取得 └ 飼料の安全を確保するために取り組むべき安全管理手法を農林水産省が定めたガイドライン「飼料等の適正製造規範（GMP）」の適合確認を全畜産飼料工場で取得 └ 試験所及び校正機関の能力の規格「ISO17025」を取得 ・仕入、製造、出荷までのトレーサビリティシステムを確立
<p><社会> 雇用</p>	<p>【インパクトの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働時間の増加 <ul style="list-style-type: none"> └ 有給の年間取得日数 12日 └ 一人当たり残業時間 8時間/月 ・マイノリティ（女性、障害者等）の活躍に対する障害 <p>【緩和・管理の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休暇制度の充実と取得推進のため、最大10日程度の休暇を取得できるリフレッシュ休暇制度を導入 ・テレワーク制度、時差出勤制度を導入 ・育児・介護休業や勤務時間短縮、子どもの看護休暇・介護休暇等の制度を導入
<p><環境> 気候</p>	<p>【インパクトの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造・販売過程でCO₂が発生 <ul style="list-style-type: none"> └ 2020年度 Scope1+2 57,032 t-CO₂ └ 2021年度 Scope1+2 55,609 t-CO₂ <p>【緩和・管理の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・省エネ設備への切替え、太陽光発電の利用等によるエネルギー原単位の削減 ・エネルギー原単位の削減に加え、A重油のガス化、社有車のハイブリッド車への切替え、再エネ電力プランへの切替え
<p><環境> 廃棄物</p>	<p>【インパクトの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造・販売過程で廃棄物が発生 <ul style="list-style-type: none"> └ 2021年度 産業廃棄物 2,400t <p>【緩和・管理の状況】</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・工場からの廃棄物について廃棄場所を指定し細かく分別して管理 ・余剰となった飼料を破砕して再利用することで廃棄物を削減
<p><社会> 保健・衛生 雇用</p>	<p>【インパクトの状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造・販売活動において労災事故、交通事故が発生 └2021年度 労災事故 8件 └2021年度 交通事故 18件 <p>【緩和・管理の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労災事故内容の共有化、安全パトロールによる危険個所の点検 ・運転情報の可視化や評価、ドライブレコーダーの設置、運転前アルコール検知体制の確立

特定されたポジティブ・インパクトの創出を維持および、ネガティブ・インパクトを緩和・管理するため、中部飼料株式会社による今後の取組テーマと、目標、当行がモニタリングを実施する項目（KPI 等）については以下の通りです。

【目標（KPI）】

内容	目標とモニタリング項目（KPI 等）
安全・安心な飼料製造を継続的に実施するための管理体制の充実および、付加価値を持つ飼料の継続的な開発・拡販	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2027年度 畜産飼料販売数量 10%増加(2022年度比) <p>【モニタリング項目（KPI 等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜産飼料販売数量
<ul style="list-style-type: none"> ・「差別化飼料」（汎用製品ではなく高付加価値を持つ製品であり、顧客と共同開発した飼料）の継続的な開発・拡販 ・畜産保険のブラッシュアップ・拡販 	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2027年度 畜産飼料売上高に占める「差別化飼料」売上高の比率 5%増加（2022年度比） ・2023～2027年度 畜産保険の累計販売件数 3,000件 <p>【モニタリング項目（KPI 等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜産飼料売上高に占める差別化飼料売上高の比率 ・畜産保険の販売件数
新たな食品副産物の飼料原料への活用および、飼料原料における割合の増加	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品副産物使用数量の増加 <p>【モニタリング項目（KPI 等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品副産物使用数量
畜糞発酵処理機「コンポ」の継続的な開発・拡販	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2023～2027年度 コンポの累計販売台数 400台 <p>【モニタリング項目（KPI 等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンポの累計販売台数
「KD シリーズ」のブラッシュアップ（製品の能力向上）・拡販	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2023～2027年度 「KD シリーズ」の累計販売数量 50万トン

	<p>【モニタリング項目 (KPI 等)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KD シリーズの累計販売数量
環境に配慮した飼料（「KD シリーズ」、飼料中のアミノ酸バランスを改善することで排せつされる窒素の量を低減する飼料、牛のゲップを抑制する飼料等）の開発・拡販	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2027 年度 環境に配慮した飼料の販売数量を倍増させる（2022 年度比） <p>【モニタリング項目 (KPI 等)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮した飼料の販売数量
有機入り配合肥料の開発・拡販	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2027 年度 有機入り配合肥料の販売数量 50%増加（2022 年度比） <p>【モニタリング項目 (KPI 等)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機入り配合肥料の販売数量
太陽光発電設備の設置	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2023 年度 太陽光発電設備を 2 ヶ所設置 <p>【モニタリング項目 (KPI 等)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電設備の設置実績
無魚粉飼料・低魚粉飼料の開発・販売	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2027 年度 無魚粉・低魚粉飼料の販売数量 20%増加（2022 年度比） <p>【モニタリング項目 (KPI 等)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無魚粉・低魚粉飼料の販売数量
飼料の安全性の確保	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認証（「ISO22000」、「GMP」、「ISO17025」）取得の継続 <p>【モニタリング項目 (KPI 等)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各認証の取得状況
労働時間の削減	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人当たり残業時間の削減 ・有給休暇の取得日数の維持 <p>【モニタリング項目 (KPI 等)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人当たり残業時間 ・有給休暇の取得日数
エネルギー使用量削減、CO ₂ 排出量削減	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2027 年度 エネルギー原単位 5%削減（2022 年度比） ・2030 年度 Scope1+2 排出量 30%削減（2020 年度比） <p>【モニタリング項目 (KPI 等)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー原単位

	<ul style="list-style-type: none"> ・ Scope1+2 排出量
労災事故、交通事故発生抑制	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 労災事故 0 件 ・ 交通事故 0 件 <p>【モニタリング項目（KPI 等）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 労災事故件数 ・ 交通事故件数

当行は、特定されたインパクトの創出状況やネガティブ・インパクトの緩和・管理の状況、目標、モニタリング項目（KPI 等）の状況について、ファイナンス期間にわたり年 1 回モニタリングを実施してまいります。

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループは、「MUFG Way」の中で「世界が進むチカラになる。」を存在意義（パーパス）と定め、持続可能な環境・社会の実現に向けて、お客さまをはじめとする全てのステークホルダーの課題解決のための取り組みを進めています。引き続き、お客さまの ESG の取り組みを支援し持続的な成長を後押しすることで、環境・社会課題の解決に貢献してまいります。

以 上